【「鍛地頭-*tanjito*-」】での〈学び〉の振り返りと今後の見通し

令和7年度（令和6年度実施）
長崎県公立学校教員採用選考試験合格
S 先生・小学校教諭

【〈学び〉の振り返り】

「場面指導 Weekly 解説ルーム」では、小桝先生が用意した課題について、数人の他の先生方と話しながら、テーマについての理解を深めていきました。

根拠となる法規や資料も同時に示してくださります。受講と同時期に一次試験の勉強も行っていたのですが、一般に、教育法規の対策を行うと、穴埋め問題にされやすい箇所ばかりを覚えたり、法規名は覚えているものの内容についての理解がまちまちであったりすることが多いのではないかと思います。しかし、「場面指導 Weekly 解説ルーム」では、特定の場面から関連法規や実際の事例にアプローチしていくため、どんな法規なのかを具体的にイメージしながら覚えることができました。

また、大学生の私にとって、様々な校種・地域・年齢の先生方とお話をする機会は大変貴重なもので、大きな刺激になったと感じています。特に、現職の先生方は、現場での経験や、直面している課題などから話を広げてくださることもあり、学校現場をより具体的にイメージしたり、教育に関する諸課題と、実際の学校の様子を結びつけたりすることに繋がりました。

さらに、自分が発言したり、他の先生方の考えを聞いたりすることを通して、講座の開始時にはぼんやりとしていた考えが、しっかりとまとまっていきました。時には、受講生のうち一人がファシリテーターとなり、その場で挙がった意見を受けながら、話し合いを進行していくこともありました。

私は元々、話すことがあまり得意ではなかったのですが、自分の考えを短くまとめ、それを画面越しの相手にも伝わるように話す…という流れを繰り返したことで、話すことへの苦手意識がなくなりました。これは、教員採用試験の面接試験にも生きたのではないかと感じています。

「面接試験対策講座」は、Microsoft OneNote を用いて様々な質問に答えていき、それに対して先生が添削をしてくださる形で進めました。一つの質問に対し、一つの答えで終わることは絶対にありません。添削では、自分が書いたものに対して、それは「教師にとって」どのような意味をもつのか、「学校のどのような場面で」活用するのかという切り込みが多く、いくら自分のよさや経験を挙げることができても、それらを教員としての具体的な強みに変えることができなければ、面接試験における武器にはならないのだと痛感しました。

答えに詰まってしまうことも多々ありましたが、掘り下げるうちに自分の本音がわかったり、自分が気にも留めていなかったようなことが強みになったりすることもありました。他にも、1 対 1 のリモート講座も含まれており、ここでは話し方のクセを指摘していただいたり、大学の方で行っていた対策について話したりと、良い機会になりました。

実際の面接試験では、面接官の方々が、質問を通して何を聞こうとしているのかを推測しながら答えることができたと感じています。また、面接全体で一貫して、一生懸命子どもたちに向き合おうとする姿勢が伝わるよう、心がけました。

【〈学び〉の見通し】

4月からは実際に学級をもち、子どもたちと毎日関わる生活が始まります。どのような課題に直面するのか、特に力を入れていきたいと感じるようになるのか、現時点ではまだわかりませんが、子どもたちと関わる中で、さらに深めたいと感じたことについて、研究していくことができたらと考えています。また、他の塾生の先生方による実践報告会が開催されることもあるため、是非参加し、自らの学級経営や授業づくり等に取り入れていきたいと思います。